令和六年度

水について考える

第四十六回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県優秀作品集

茨城県

もくじ

第四十六回　茨城県優秀作品（令和六年度）

【最優秀賞】

私の大好きな川　茨城大学教育学部附属中学校　二年　小橋結友（こばしゆゆ）……1

【優秀賞】

世界の平和は日本の技術から　茨城大学教育学部附属中学校　二年　北野彩奈（きたのあやな）……3

水問題から救うために　茨城大学教育学部附属中学校　二年　坂本一華（さかもといちか）……5

地球と人をつなぐ　茨城大学教育学部附属中学校　二年　戸崎陽菜（とざきひな）……7

千波湖が語る過去と未来　水戸市立笠原中学校　三年　大森花音（おおもりかのん）……9

【入　選】

日本の水資源は狙われているのかもしれない　水戸市立笠原中学校　三年　石井若葉（いしいわかば）……11

「水の惑星」であり続けるために　水戸市立笠原中学校　一年　徐莉亜（じょりあ）……13

水の大切さについて　水戸市立第四中学校　二年　宮林凛音（みやばやしりんね）……15

水の大切さ　水戸市立第四中学校　一年　宇都木愛翔（うつぎまなと）……17

繋ぐ。国を越えて　水戸市立第四中学校　一年　佐藤莉桜（さとうりお）……19

次世代に水を残してゆく　茨城県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校　二年　山本華穂（やまもとはなほ）……21

「水の日」及び「水の週間」について……23
第四十六回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について……24

第四十六回　茨城県優秀作品

（令和六年度）

最優秀賞

私の大好きな川

茨城大学教育学部附属中学校
二年　小橋結友

私の家の近くには、川があります。毎朝、学校に行く時に見ると、日が当たる所にはカメがいたり、魚を狙って真っ白なサギがじっとしているのが見えたりします。毎年、夏の夜にはホタルが飛び交い、私は妹と一緒にホタル来いと歌ってホタルを呼びます。私は、この川が大好きです。

しかし最近、その川について心配なことがあります。それは、私がカワセミを見に川へ行った時のことです。

私が川の方へ歩いていくと、コバルトブルーの体が、日に当たってキラッと見えました。私は嬉しくなって、すぐに家族に報告に行くと、お父さんは「よかったね」と言ってくれました。「魚はいたの」と聞かれたので、「水が濁っていて見えなかった、あまりいなそう」と答えました。すると、おじいちゃんが「昔はもっと魚がたくさんいたんだ。カニやウナギもたくさん釣れた。」と言ったのです。それが、私には自然豊かだった昔を懐かしんでいるように見えました。今よりも、もっと、もっと綺麗だった川を。そして、私は想像しました。昔の綺麗な川、鋭く通り過ぎたコバルトブルーのカワセミ、そして今は茶色く、暗くなった川――。

想像しているうちに、ふと、去年の夏の川の様子が思い出されました。それは、お父さんと妹と一緒に行った河原。缶が落ちていました。はじめはそれだけだと思っていましたが、見回してみると、ビンやボール、自転車のタイヤまで落ちています。河原には夏なので草が高く生えていて、そこに隠れるようにしてありました。そのゴミは、遠くからだと見えず、河原まで近づかないと見えません。見えないからと言って、軽い気持ちで捨てたのでしょう。お父さんや妹は驚いているようでした。私もとても驚いたけれど、魚は大丈夫なのかが気になりました。

また、学校の図書室で川に関する本を見つけました。読んでみると、「プラスチックなどのゴミを放置すると、雨水などによって有害物質が土に溶け出し、川の水を汚染します」（森と水と土の本　二〇二四年四月）とありました。また、プラスチックは魚などが間違って食べてしまうこともあるそうです。軽い気持ちで捨てたゴミは、魚たちにとっては、命を奪われる兵器だったのです。

そして、川の汚染はゴミだけでなく、洗剤や食べ残しなどの「家庭からの生活排水の影響が大きくなっています」（茨城県HP　パンフレット「みんなで実行！生活排水対策」五月一日閲覧）とあり、汚れの三割近くを占めているのだそうです。確かに、あの川は茶色く濁っていました。泡もありました。それも、生活排水、ゴミ、全部人間のせいなのです。

今、川では異変が起きています。私の家の前の川だけでなく、日本、世界の川が汚染され、苦しめられています。私たちの軽い気持ちからの行動が、多くの生物の命を奪っているのです。しかし、私たちに原因がある以上、できることがあります。だから私は、日常生活の中で、一つ一つ、できることをしたいです。例えば、洗剤ワンプッシュ運動。洗剤はついつい使いすぎてしまいますが、川を汚染する原因の一つです。ワンプッシュと、使用量を決めておけば、洗剤の使いすぎを防げると思います。また、今の現状を知ることも、大切なことの一つだと思います。今川で何が起きているか、それを知っていたら、川にゴミを捨てるなんてことはしないでしょう。

ウグイを釣った川、石集めもできる川、眺めるだけでも楽しい川、そして、魚、カワセミ、人間がみんなで生きていく川。私ができることは本当に小さなことですが、積み重ねれば、きっと意味のあるものになると思います。私の家の前の川、この先もずっと、よろしくね。

優　秀　賞

世界の平和は日本の技術から

茨城大学教育学部附属中学校
二年　北　野　彩　奈

「お店で出される水や生野菜は食べられないよ。」

これは私がインドネシアに行った時に、父から言われた言葉です。日本では食べられるのに、どうしてだろうと不思議に思いました。そこで父にたずねてみたら、

「日本の水道技術は高く、安全で安心出来る水が飲めるけれど、そうで無い所もあるのだよ。」

と教えてくれました。私は日本が恋しくなりました。

そこで、他の国の水道技術について、調べてみようと思いました。すると、ある一枚の写真を見つけました。それは、裸足の小さい子供達が、バケツを頭の上に乗せて、水を運んでいる写真でした。とても辛そうな表情をしていました。子供達は、水を運ぶために多くの時間を費やし、身体にも負担がかかっているようでした。多大な時間と苦労をかけて運んできた水ですが、ＪＩＣＡの資料によると、仮に水をくめたとしても水源の水質が悪く、赤痢やコレラ等の水因性疾患の原因になってしまうそうです。でも生きるためには、その水を飲むしかないのです。

また、水道が整備されている国でも、水道料金の価格が問題となっています。日本の横浜市では、水道料金が約一 US$/m3 ですが、カンボジアのプノンペンでは、約〇・二 US$/m3 で日本の五分の一の値段です。さらにミャンマーのヤンゴンでは約〇・〇七 US$/m3 と安すぎる状況です。しかし、ボトル水の販売価格は、ミャンマーの地方都市では、約十九 US$/m3 と高く、多くの人は簡単に買うことができません。

そして、水道事業体にとっても問題があります。それは、水道料金面が低く、予算が貧しかったり、能力のある技術者が少なかったりと安心安全な水を届ける事が出来ないのです。（ＪＩＣＡ「水分野の

途上国における課題」二〇二四年四月閲覧）

そこで、私は、日本の水道技術を伝える必要があるのではないかと思いました。簡単なところでは、一つ目は水質浄化剤という薬品を使用して水をきれいにし、安心して飲めるようにする方法です。二つ目は、使用した水の排水をろ過し、繰り返し使えるようにする装置を提供する方法です。

このように簡単な事から始め、最終的には、水道を整備して、安心安全な水を供給出来るような技術を、現地の人々に伝えます。そして、未来永ごう持続出来るように、自分達で管理するための技術も伝えます。そうすれば子供達が水を運ぶ時間が無くなり、教育を受ける時間が出来ます。それにともない、色々な知識も得る事が出来ます。さらには、職業の選択肢も広がるため、自分の国をより良くする事に貢献出来ます。

また、SDGsにも水に関する目標があり、日本の水道技術を広める事は、子供達の未来を明るくする事でもあります。そして、教育を受けた子供達が全世界に広がる事により、世界平和にもつながるものだと思います。

日本の技術を伝える事により、子供達だけではなく、大人達も豊かな生活を、送る事が出来るようになります。

安心安全な水を、一日でも早く、全世界の人々が使えるようになる事を私は心の底から願っています。

優秀賞

水問題から救うために

茨城大学教育学部附属中学校
二年　坂本一華

日本に住んでいる私たちは、水を飲んだり、トイレに行ったり、手を洗ったりすることを当たり前のようにしています。私たちは日常で多くの安全な水を使用しているのです。しかし、世界にはまだ安全な水を手に入れられない人が六億六千三百万人もいると言われています。（日本ユニセフ協会「どんなに汚くてもこの水を飲むしかない」二〇二四年五月閲覧）SDGsにもあるように、世界の水問題は深刻なのです。私はアフリカでの体験を通してさまざまなことを実感しました。

アフリカのスラム街地域に父の知り合いとみんなで車に乗って見に行ったことがあります。そこでは、汚そうな水が溜まっているような場所に大勢の女性や子供が密集して、とても大きなボトルのようなものに水をいっぱい入れ、家に持ち帰るということを何度もくり返していました。各地からは嫌な匂いがして、布を被せただけのような家には水道やトイレもありませんでした。日本での生活が当たり前だと思っていた私からはとても信じられませんでした。ユニセフによると、世界では十八億人もの人がまだ自宅の敷地内で水を手に入れることができないのだそうです。（日本ユニセフ協会「水と衛生」二〇二四年五月閲覧）日本では蛇口を捻るだけで水が出るのに、アフリカでは家と水が溜まっている場所を往復しなければならないのです。また、水に困る多くの人たちはとても貧しい生活をしていました。それは、きれいな水がなかなか手に入らないからというのも理由なのではないかと思いました。水がないと食料問題や衛生問題や教育問題にもつながり、貧困や病気、戦争などにも発展してしまうのです。水がなければ作物も育たず、衛生ではない水を飲んで病気につながってしまったり、水を汲むのに時間を使ってしまい勉強できる時間がなくなったりするから

です。しかし逆に考えると、水の問題が解決されればこのような問題もなくなるということです。水の問題解決の重要さと、きれいな水が常にあるからこその恵まれた生活だったのだということに気付かされました。

私は、世界のこれらの問題を解決するためにするべきことは二つあると考えています。

一つ目は、日本の技術を技術者などを通して世界に伝えるということです。私の父は、水道管を整えて、敷地内に水を通らせたりする活動を行っていたそうです。結果、生活が少し豊かになったそうです。父のように日本などの世界各国が協力して、各地に水を巡らせる技術を伝え、安全な水の確保が持続可能になるように協力し合うべきです。

二つ目は、水が起こす問題と現状についてもっと多くの人に知ってもらうということです。今世界には劣悪な水を飲まざるを得ない国が多く存在することを多くの人に知ってもらって、すべての人がこの問題を真剣に受け止めるべきだと思っています。私は、身の回りの人に話すということからも、この水の問題の重要さを伝えることができ、世界の大きな水問題の解決の鍵となるのではないかと思います。

この世界には日本のような水の当たり前が当たり前ではない国があるという現実について、日本に住む私たちは、水に困ることがないためこれを実感することは少ないと思います。しかし、水による問題は深刻なので、誰もが真剣に考える必要があるのではないのでしょうか。世界全体が真剣に考えて協力をして、水に困ることのない、誰もが過ごしやすい世界を実現させたいです。

優秀賞

地球と人をつなぐ

茨城大学教育学部附属中学校
二年　戸崎陽菜

私は、幼い頃から自然が好きだ。釣り堀で魚を釣ったり、掴み取りをしたり、山に登ったりなど、自然に親しめる場所へ連れて行ってもらっていた。そして、私の祖父母は農家だ。だから、季節になると田植えをしたり、とうもろこしやネギの収穫をしたり、普段の生活の中でも自然に触れる機会が多かった。

「水」は私たちが生きていくうえで必要不可欠なものだと思う。自然に触れるたびに実感する。植物は、水がないと枯れて育たない。私たち人間や動物も水がないと生きていけない。まさに、「水は地球のめぐみ」だ。

しかし、水がもたらすのは、めぐみだけではない。それは、水災害だ。

二〇一九年十月六日。台風十九号が起きた日だ。住宅被害については、全壊が三千二百七十三棟、半壊・一部破壊が六万三千七百四十三棟、浸水が二万九千五百五十六棟だったそうだ。関東甲信越地方、東北地方を中心に停電や断水が相次ぎ、停電が約五十二万戸、断水が約十八万戸発生するなど、ライフラインにも大きな被害が生じた。（内閣府防災情報ホームページ「2019年（令和元年）令和元年度台風第19号」2024年4月閲覧）

台風十九号の影響により、私の父方の祖父母は、水が家の中に流れ込んでしまう被害に遭った。二階にまで水が到達したそうだ。周辺では木が倒れたり、家や瓦礫が押し流されたりし、道路を塞いでいるのをテレビで見た。

「祖父母は大丈夫だろうか。」

ニュースを見ているとそんな不安が募っていった。

水が少し引いたある日、家族みんなでボランティア活動をした。私は、ボランティア活動をすることが初めての経験だった。使えなくなった家電や家具、

流れてきた木やゴミを捨てられる場所へ運ぶなど、周りの大人の指示を聞いて活動した。まだ幼かったこともあり、大きいものを持ったり、素早く行動することはできなかったが小さなものでも、水を含んでいて動かすのは、大変な作業だった。やるべきことが終わったとき、他では感じることができない達成感を味わった。しかし、冷静になるとほんの少ししか進んでおらず、胸がキュッと締め付けられるような感じがしたのを覚えている。自分のしたことが少しでも祖父母や被災者の方々の力になれたらいいという気持ちだったのだが、自分の力があまりにも小さすぎたのを実感した。しかし、祖父母や被災者の方々から

「ありがとう。」

と笑顔で言われたとき、このボランティアを行って良かったと思った。今の自分がどれだけ恵まれているのかを改めて実感し、自分を見つめ直す良い機会となった。また、苦しい思いをしている人のために少しでも良いから自分にできることを実践することで、それがいずれ必ず大きな力になるということもわかった。私が被災地のためにできたことはわずかだったが、逆に得たものは大きかった。この復興ボランティアで感じたこと、得たものを大切にして、これからに生かしていきたいと思った。

洪水の被害に遭った今、各地で洪水対策が行われている。少しでも被害が少なくなるように、少しでも悲しむ人が少なくなるように、対策をしていくべきだと思う。

水は必要不可欠なもので多くの恵みをもたらしてくれる。しかし、それとは裏腹に水災害にも隣り合わせだ。日本は、傾斜が急で険しい地形なゆえに河川は著しく、大雨になると急激に河川流量が増加し、洪水などによる災害が起こりやすい。だから、自分ができることをみんながすべきだと思う。

どの水でもやがて海へと続く。水が世界を繋ぐように、人と人を繋ぐような人に私はなりたい。

優　秀　賞

千波湖が語る過去と未来

水戸市立笠原中学校
三年　大　森　花　音

千波湖は、水戸市の中央に位置する湖で、日本三名園の一つである偕楽園の借景として、水戸市を代表するシンボルになっている。周辺には四季折々の植物が見られ、白鳥や鴨などの水鳥、魚など多種多様な生物の生息地となっている。一周三kmの湖周では、多くの市民がジョギングや散歩を楽しんでいる。さらに、祭りなどのイベントも催され、市民にとっての憩いの場となっている。私自身も幼い頃から、家族とともに千波湖を訪れ、たくさんの自然と触れ合ってきた。

奈良時代に編さんされた常陸国風土記には、茨城県の風土に関する記録が数多く残されているが、その中に、「ダイダラボウ伝説」なるものがある。千波湖は、ダイダラボウという大男の足跡だとして語り継がれている。

私は幼い頃、この話を「水戸郷土かるた」を通して知ったが、長きに渡って受け継がれ、人々の身近にあった千波湖の歴史はどのように紡がれてきたのかということが気になり、調べることにした。

千波湖は約五千年前頃、那珂川の氾濫が起きたことがきっかけで、形成されたそうだ。

江戸時代になると、水戸藩の城下町造りの一環として、千波湖は、水戸城の外堀となるように改修された。人々の力で整備された千波湖は、水戸藩にとって水戸城を守る要となったのだ。「千波湖」という名が付けられたのも、このころからだったという。

その後、現在も残っている備前堀が造られると、千波湖の水は周辺の水田へ供給されるようになった。

一八四二年に徳川斉昭によって偕楽園が創設されると、千波湖は偕楽園の借景として欠かせないものになっていった。

大正時代後期になると、昭和時代後期にかけて、改修事業が進められ、東部が埋め立てられると、現

在の千波湖の姿になった。

現在、千波湖は環境省によって「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」の一つに定められている。

このように古くから人々とともに歴史を歩み、生活を支えてきた千波湖だが、近頃ある問題が発生しているのを知っているだろうか。

夏場に訪れると、水面に浮かんでいるのは緑色の汚れ――アオコの発生による問題だ。水戸市が以前行った水生生物生息実態調査での水質調査では、四階級中下から二番目の、「汚れた水」だと測定されている。

アオコの発生は、河川の流入がないことから水が滞留していることに加え、生活排水からの栄養塩の流入によってもたらされている。

水戸市では、こうした課題への対策として、浚渫による底泥の除去、那珂川からの水の誘引、湖沼内の水の流動促進装地や噴水の設置など、数多くの取り組みが行われ、汚れの値を表すＣＯＤ値が減少したという効果も見られている。それでも、千波湖の浄化は未だ十分ではないのが現状だ。

こうした状態の中で、千波湖の美しい水資源を守っていくためには、私たち市民の工夫、すなわち、生活排水を減らすように努めることが必要なのではないだろうか。

料理や洗濯など、日常の中で私たちが生活排水を排出している場面は度々ある。生活排水を減らすことは、アオコの発生の減少をはじめとして、二酸化炭素の排出の抑制や、生物の生息環境の保全など、環境にとってのメリットを数多く生み出す。例えば、食べ残しを減らす、洗剤の使い過ぎを防ぐ……そんな手軽なことでも、環境への影響を変えられるかもしれない。自らの環境に対する意識、そして限りある水資源に対しての自覚を持ち、行動を見直していきたい。

「水の都」、水戸。そんな故郷の美しい環境資源を、これからも大切に守り、誇っていきたい。

入　選

日本の水資源は狙われているのかもしれない

水戸市立笠原中学校
三年　石　井　若　葉

私はこの作文をきっかけに昨年から水について興味を持ち、ニュースや動画などでよく目にするようになりました。調べれば調べるほど、日本人の水に関する問題の考え方に不安を感じるようになりました。

日本も世界と同様、水不足が心配されています。近年、年間降水量が減少してきているのに対して、世界の人口は増え続けています。去年、世界人口は八十億人を突破し、十年前から比べると約十億人と増え続けています。

地球上には、およそ14億㎥の水があるといわれます。そのうちの約97.5％は海水で、淡水は残りの約2.5％だけです。しかも、淡水の大部分は南極や北極などの氷河であり、地下水や河川水、湖、沼などは地球上の水の約0.8％。さらに、そのほとんどは地下水として存在しており、比較的利用しやすい河川水や湖沼水は地球上の水のわずか0.01％にすぎないのです。私たちが利用できるこのたった0.01％の水を、みんなで分け合って使わなければならないのです。日本では蛇口をひねれば安心して飲める水が豊富に出てくる現状に満足してしまい、このような危機的な状況を知る機会が少ないのではないかと感じます。

飲める水が足りないのならば、海水を浄水して飲めるようにすれば良いのでは、また空気から水を作ってしまえば良いのでは、と去年も調べてみましたが、コストがかかってしまいやはり現実的ではないということがわかりました。では、地下水を使うのはどうでしょうか。昔のように、井戸を掘って汲み上げるのは難しいことなのでしょうか。

例えば、熊本県は生活用水の八割が地下水を使っているそうです。それに対し茨城県では約四～五割

なので、かなり水資源が豊富なことがわかります。この豊富な水資源を目当てに、外国の工場が進出してきています。今年、大量の水が必要な半導体工場を完成させました。その上、第二工場の建設も進めているそうです。大量の地下水を使用するそうで地元の住民に不安が広がっているようですが、そもそも地下水は誰の物なのか、使いすぎると無くなってしまうものなのでしょうか。

日本には地下水を管理するための総合的な国の法律がなく、民法では地下水は原則として土地所有者に権利があるとされています。そして、保全・管理は各地方自治体に任されています。茨城県では、「茨城県地下水の採取の適正化に関する条例」などにより、地下水の採取の規制を行っているので安心しました。最近、北海道の土地を外国人が購入しているとよく聞くようになりました。この十年間で、外国人などによって取得された森林面積は三倍以上に拡大しているそうです。地下水は原則として土地所有者に権利があるというルールは、はたして今の日本に合っているのかと不安になります。そして、地下水も限りある資源であり、多くの採取を続けていると水質の悪化や枯渇、さらに地盤沈下等の障害をもたらすことになりかねません。

私たちの生活は、自然からのたくさんの恵みで成り立っています。すべて自然に依存していて、特に水は大切な資源です。石油と違い使い切ったら終わりではなく、水は循環しています。使うだけではなく、次の世代に残す水として保全する必要があります。環境省のウォータープロジェクトに、たくさんの企業や団体が参加しています。前述の熊本県では、地下水が枯れないように休耕田に水を張って地下に浸水するように対策しているそうです。これからの地球の水を、未来のため守っていくにはどのような取り組みが必要なのか、真剣に議論する時期にきていると思います。水を守るために、日本は世界と連携してこの問題に取り組むことが重要な課題だと強く思いました。

入　選

「水の惑星」であり続けるために

水戸市立笠原中学校
一年　徐　莉　亜

地球は、「水の惑星」と呼ばれている。実際、水・つまり海洋と陸地の割合は七対三であり、地球のほとんどが水でできている。

私は泳ぐことが好きで、小学生まで水泳教室に通い、中学生になるとずっと前から入ると決めていた水泳部に所属して、泳力を日々きたえている。そんな私が水に興味を持ったのは、小学校六年生のときに水泳教室で起きた出来事がきっかけだった。

それは、その日の水泳教室が終わった後、シャワーを浴びて着替えようとしていたときのことである。そこでは「最後にシャワーを使い終わった人は、必ず水を止める」というルールがあったのだが、最後に使った私はそれを止めるのを忘れてしまい、シャワーの水が出しっぱなしになっている状態だった。すると、水泳教室の先生が残念そうに水を止めている姿が見えて、私は思わず目を見開いた。怒られたりはしなかったものの、「水なんていくらでもあるじゃないか」と思っていた私は、どうしてそんなに水が大切なのかが気になって仕方が無かったのだ。そこで、私は水のことについて調べることにした。

すると、私達が普段当たり前のように飲んでいる水道水は、全体の九割ほど、つまりほとんどの国が安全に飲むことのできないということを知った。日本では誰もが飲んだことがあると言ってもいい水道水だが、それは日本の水道水の質や安全性が高いのであって、「水道水は安全に飲めない」が当たり前の国が多いそうだ。また、シャワーの水を浴びる際にも、海外のシャワーに多い「硬水」の出るものを使うと、髪や肌が乾燥してしまう人も少なくないという。世界ではそんな問題があるだなんて知りもしなかった私は、あの先生のように、どうして人がきれいな水を大切にしているのかがようやく理解できたような気がして、とたんに自分がはずかしくなっ

た。そして、それと同時に、毎日水に困ることもなく、安全に生活ができている私はどんなに幸せなんだろう、とも感じた。

この地球は、「水の惑星」と呼ばれながらも、安全に水を使うことができない、水が足りないと感じる人がたくさんいる。しかし、そんな人たちを助けるために、私達にもできることがたくさんあることも知ってほしい。例えば、川や海にごみを捨てないようにしたり、食べ残しを無くしたりするだけで、水はもっときれいになる。食器洗いのときに使う洗剤だって、少しでも量を減らせばそれに貢献できる。きっと私にもできることもたくさんあるだろう。

地球に住む一員として私にできることはなんだろう、と考えてみる。具体的な活動もそうだが、もっともっと水について知っていくことだと、私は考えている。そして、これを機に、水についてたくさん調べてみたいと思う。

この思いが、世界の人にも届けられたらいいな。

地球が、いつまでも美しい「水の惑星」であり続けるために。

入　選

水の大切さについて

水戸市立第四中学校
二年　宮　林　凛　音

水の大切さを意識したことはありますか。地球にある水、といっても、海や川の水などいろいろあります。しかし、海の水も、川の水も、常に同じところにあるわけではありません。水は、いろいろな姿で地球を循環しています。海の水が蒸発し、雨雲になり、雨が降る。降った雨は川になり、川は海に流れる。私達は、この水の循環の中の水を利用しています。日本人は、一日に約二百九十リットルの水を使用しています。飲用水、風呂、トイレ、洗たくなど、水は日常生活に欠かせないものです。私は、地球の水資源と環境を守るために水を大切にするべきだと思います。

一つ目の理由は、人間が使用できる水はそう多くないからです。地球は水の惑星と呼ばれています。その名の通り、地球の表面積の七割を海が占めています。水ならたくさんあるように思えますが、地球の水のほとんどは海水です。生活に利用することができる真水は地球の水の約〇・八パーセントしかないです。日本では、水がなくて困ることはめったにありません。しかし、アフリカや中東地域、中国、アメリカなどでは、干ばつの被害が深刻化しています。干ばつが起こると、ダムの水位が下がり、水道が使えなくなることがあります。干ばつは日本でも発生しています。今は、ダムの取水制限や農作物の被害だけです。しかし、今後もっと大規模な干ばつが発生するかもしれません。今、水がありふれたものであることが、とてもめぐまれた環境であると分かります。だから、今のうちから節水を心がけ、水を大切にする意識を持たなくてはいけません。また、これからも水を使用し続けるためには、水を大切にすることが必要です。

理由の二つ目は、環境を守るためです。普段使用している水は、川や湖などの水を浄水場できれいに

した水道水です。使用した後の水は、下水道を通って下水処理施設できれいにしてから自然に返しています。もし、食器用洗剤を一ミリリットル、海や川に流してしまったら、魚が住めるきれいな環境に戻すためには四十リットルの水が必要になります。使用済みの油だと、さらに多い三百三十リットルの水が必要になります。それほどに洗剤や油は水をよごすのです。私達は、生活のために水を地球から借りています。当然、水を使用するなら、汚くならないようにするのは、使用者の責任です。いくら下水処理場できれいにしているから、といっても汚くならないようにしなくてはいけません。

　このように、地球の水資源と環境を守るためには、水を大切にすることが必要です。必要以上に水を使用しないためには、シャワーの時間を短くしたり、歯みがきのときに水を出しっぱなしにしないようにしたりする。水をよごさないためには、食器を洗うときに洗剤を使いすぎないようにする、など、今からでもできることはたくさんあります。だから、水の大切さを意識して、水資源と環境を守るための行動をしたいです。

入　選

水の大切さ

水戸市立第四中学校
一年　宇都木　愛翔

僕が、「水」と聞いて最初に思い浮かぶのは、水道のじゃ口から出る水のことで、僕達の生活には欠かすことができない大切なものということです。

しかし、僕にとって水は、身近に当たり前にあり過ぎて、この作文の課題を出されるまで、水のありがたさ、大切さなどについて深く考えたことはありませんでした。

そこで、僕はまず水について調べて理解を深めることにしました。

水は、飲み水や炊事、洗濯、風呂、水洗トイレなどの日常生活で使われるほか、農業、工業、水力発電などはば広い分野の産業で使われており、僕達の暮らしを支えてくれています。そして、人間の体の約六十から七十パーセントは、水でできているので、飲み水は人間の体に必要不可欠なものになっています。

日本では、じゃ口をひねれば当たり前のように水が出てきますが、世界でみると、日本のように水道から二十四時間安全でおいしい飲み水があふれ出てくる国は、ごくわずかだということを知りました。世界では、水道やトイレ、下水道といった衛生設備のない国が多くあります。その結果、生活排水がそのまま流されるため近くの河川が汚染され、安全な水が手に入らない地域があるのです。

日本の水道普及率は約九十八パーセントであり、世界と比べると高い水準ですが、残りの二パーセントの約二百三十万人が水道を利用できない状態の地域であるということが、ＳＤＧｓについて調べていて分かりました。

僕が住んでいる日本は、比較的めぐまれていて、豊かな国だと思います。しかし、日本は、降水量が年々減少するけい向にあり、毎年のように各地で水不足が起こっている状きょうでもあります。

僕の祖父母は農業を営んでいるので、農業においても、水はとても重要であると聞いています。作物は水がないと育たないため、水不足は作物の生育にえいきょうし、大きな打げきを与えてしまいます。それは、農家にとっても、深刻な問題となっています。原因を調べて見ると、水不足は地球温暖化による気候変動も関係しているということが分かりました。二酸化炭素の排出が日本の水不足に関わっているとは想像もできませんでした。人間が自然環境に与えるえいきょうはとても大きいと感じました。

また、水は、人間や動物、植物にとても必要なものです。僕たちは一人一日平均約二百四十リットルの水を使っているそうです。過去にあった災害では、その十分の一程度の量しか得られず大変な思いをした人がたくさんいます。僕の両親も東日本大震災による断水で、当たり前のように使っていた水が出なくなり、数日間水が使えなかっただけでも、慣れない断水に困った経験をしたそうです。そして、その断水をきっかけに、水は当たり前ではないと、改めて水の大切さに気がつくことができたと聞きました。

水は無限ではなく、限りある資源なので、地球温暖化防止や自然環境保全のために、僕たちにできることを少しでも実行していきたいと思います。世界の水問題にも関心を持ち、まずは、水の無駄づかいはせず、何より、水が不自由なく使えることへの感謝の気持ちを忘れずに水を大切に使っていきたいと思いました。

入　選

繋ぐ。国を越えて

水戸市立第四中学校
一年　佐藤莉桜

「プハァー。運動後の水は、格別だな。」

私は、体育の授業の終わりに水を飲むこのしゅん間が大好きだ。水を飲むとキンとした冷たさが体全体にしみわたる。水は、私を幸せにしてくれる。「じゃ口をひねれば水が出る」ということが当たり前だと思っていた。私は、良くも悪くも恵まれていたのだ。

水に対しての思いが変わったのは授業でＳＤＧｓを学んだ時だった。テーマについてまとめ、一人ひとり発表をすることになったので私はテーマを「水」に決め、みんなに見せるための資料をつくっていた。その時一枚の写真が目に入った。それは、私よりも小さな子が汚く、茶色くにごった水を飲んでいる写真だった。水を当たり前だと思っていた私は衝撃を受けた。こんなことも知らずにいままでたくさんの水を無だにしてしまっていて、とても恥ずかしくなった。

世界の三人に一人、二十二億人の人々が安全に管理された水を手に入れられていない。サハラ以南のアフリカ諸国の子ども達は、毎日重い水を運ぶために長い道のりを歩いている。どんな場所でも、じゃ口をひねればキレイな水が簡単に手に入れられる日本では想像もつかない日常だ。苦労して手に入れた水は飲み水に適さない、ゴミや泥などでにごった水であることが多い。不衛生な水しか得られないために毎日八百人の子ども達と体の弱い人が命を落としている。どうしてはやく知ることができなかったのだろうと心が痛くなった。私がちょっとだけでも無だにしなかったら救われた命があったのかもしれないのに…。「勉強をしてみたい」「学校へ通ってみたい」そう思っていても、水くみの仕事に時間をうばわれてしまって、子ども達が満足した教育を受けられなくなってしまう。教育を受けられないというこ

とは子どもたちの将来の様々な夢や希望をうばうだけでなく、貧困からのがれる術さえ失わさせてしまうことになる。子どもの教育の機会の損失も重労働も安全な水さえ確保できるようになれば解決することができる。私は、水が大切だということを改めて感じた。恵まれた国に生まれた以上水を守る責任があると思った。

さて、先程、「恵まれた国」と書いた、私たちの住んでいる日本に水問題はあるのだろうか。日本は、大陸の国々と比べて土地がせまいことから河川が急勾配になっており距離も短いといった特徴がある。そのため、いくらたくさんの雨が降っても海へと流れ出てしまうため、簡単には、淡水が確保ができない。一九九四年には、こうした地形の理由から全国的な渇水が起こった。日本は数少ない水道水をそのまま飲める国だが、やはり安心はできないのだなと思った。

水と人間は切っても切り離せない関わり合いになっている。私たちは水によって「命」を守られているのだ。水には限りがあり無限に出てくることはない。水は有限である。そんな水を守るために私たちができることはなんだろうか。私は世界に目を向けて正しい知識を念頭に置くことだと思う。恵まれた環境にいる人ほどその価値というものはよく見えていない。その価値も知らずに生活すればなにも変わらない。それどころか悪化してしまうだろう。今まで恵みに感謝の気持ちを感じずにすごしてきた。しかし、私はあの写真を機に水の大切さ、必要性に気付くことができた。一人ひとりが小さな努力を積み重ねていけば未来はきっといい方向へむかうだろう。国を越えて水は心を繋ぐ。世界中の全ての人が安全な水を得られるようになる未来のために、あなたも一歩ふみ出してみませんか？

入選

次世代に水を残してゆく

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校
二年　山本華穂

「水」それは、私達の命にとって最も身近で、必要不可欠なものです。しかし、身近にあるからこそ、その大切さを改めて考える機会は少ないのではないでしょうか。

水の惑星と呼ばれるのにふさわしく、地球の表面積は約七割が水に覆われています。ところがその中でも私達が使える淡水にあたるのは、わずか二・五パーセントほどだと言われています。さらに調べてみたところ、現在の世界人口が八十一億人以上いるなかで、その四分の一ほどにあたる約二十億人の人が、安全に管理された飲水の供給を受けられていないということを知り、とても驚くと同時に自分たちは恵まれているということを強く感じました。そして全ての生命にとってのみなもとである水のひと雫ひと雫を、日々大切に使わなければならないと思うようになりました。

実際に、学校で行っている探求活動の一環で学校付近の河川の水質を調査していて実感したのは、数値に起こしてみると、見た目や透明度に反して、水質汚濁の程度を示すＣＯＤの基準値を大幅に超えている地点もあるのだということです。このように適切に管理されていない水をそのまま飲むことはとても危険であり、人体に響を及ぼす可能性がとても高いのです。こうした現実を知ると、蛇口をひねる、あるいは手をかざすだけできれいな水がすぐに得られるという日本の光景は、決して当たり前ではない事が身にしみて感じられると思います。

水に関する問題はこのような水質汚染だけでなく、世界には、渇水や水不足に悩まされる国もあります。そうした水問題の影響は人間のみならず、他の生物にも及んでいます。例えば、水質汚染によって海のプランクトンが増え、赤潮が発生したり、海中の酸素不足による魚・貝の生息地の減少が各地で起こっ

ています。絶滅の危機まで追いこまれる生物もいるのです。

私たちの多くは、「限りある水を大切に」というスローガンのもと、幼い頃から節水に取り組んできたと思います。しかし、まずは一人ひとりが水と地球の現状をしっかりと見つめ、水を取り巻く様々な問題への理解を深め、それから自分の身の回りでできそうなことを自らの意志で探していくという心がけも非常に大切だと考えます。例えば、手を洗うとき、歯を磨くとき水を出しっぱなしにしない、当り前ですが、言われるがままにする節水と、自ら選んでする節水とでは、行為のもつ意味が大きく変わってくると思うのです。

長い歴史の中で、水はたくさんの命を育み発展させてきました。また、私たちの命だけにとどまらず、現代の便利で贅沢な生活も、その進歩の裏では、数え切れないほどの水が使われてきたのです。ところが今まで人類は水の存在に感謝こそすれ、有限である水の消費に目を向け、考える人は少なかったように思います。今になってようやく、私達は守るべき水の存在に気付いたのではないでしょうか。だからこそ、私たちには、次の世代にきれいな水を残していける可能性があると考えています。

その可能性を信じて、私はわたしにできることを探し、行動していきたいです。

「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年５月31日
閣　議　了　解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年８月１日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年８月１日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決をはかり、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することといたしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている８月の上旬が適当であるので、その初日である８月１日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

第４６回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について

１　募集要領

（１）趣　旨

「水の日」及び「水の週間」の行事の一環として、次代を担う中学生を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く水に対する関心を高め、理解を深める。

（２）テ ー マ

水について考える（題名は自由）

（３）対　象

令和６年度に県内中学校、中等教育学校１～３年次及び義務教育学校７～９年次に在学中の者

（４）応募締切

令和６年５月９日（木）

（５）原稿枚数

400字詰原稿用紙４枚以内

２　応募状況

（１）応募総数

368編

学年別　　１年　93編　　２年　203編　　３年　72編

（２）応募校

７校

水戸市立笠原中学校　常総学院中学校　水戸市立第一中学校　竜ヶ崎第一高等学校附属中学校　日立市立十王中学校　茨城大学教育学部附属中学校　水戸市立第四中学校

３　審　査

（１）審査方法

予備審査を通過した作品について、茨城県審査会（令和６年５月28日実施）で審査を行い、最優秀賞１編、優秀賞４編、入選６編及び学校奨励賞２校を選定した。（学校奨励賞は茨城大学教育学部附属中学校、日立市立十王中学校）

また、入賞した上位５作品について、国土交通省で行われる中央審査に推薦することも併せて決定した。

（２）審査基準

① 優秀作品

テーマ「水について考える」にふさわしく、日常の生活体験や学習を通じて得られた内容で、次の基準を満たすもの。

・水の貴重さ、水資源開発の重要性などが適切にとらえられていること
・将来の夢、提案等が中学生らしくまとめられていること
・抽象的、観念的なものでないこと（地域性に触れられている、実体験がいきいきと描かれている等）
・字句の正確さや、文章の構成がよくできていること

② 学校奨励賞

当コンクールに積極的に参加していること

（３）審査委員

委員長　株式会社茨城新聞社　編集局長　斎藤　敦
委　員　株式会社 Lucky FM 茨城放送　代表取締役社長　阿部　重典
〃　茨城県教育庁学校教育部義務教育課　指導主事　加藤木　俊
〃　茨城県土木部災害・防災対策監兼河川課　課長　矢内　勝浩
〃　茨城県政策企画部水政課　課長　高橋　義徳

４　表　彰

（１）表彰式

令和６年７月30日（火）

（２）賞及び副賞

最優秀賞	（茨城県知事賞）	１名	賞状、副賞（図書券）
優　秀　賞	（茨城県知事賞）	４名	〃
入　　選	（茨城県知事賞）	６名	〃
学校奨励賞	（茨城県知事賞）	２校	賞状

茨城県

茨 城 県 政 策 企 画 部 水 政 課
〒310-8555　水戸市笠原町978番6
電話　（０２９）３０１－２６２５
http://www.pref.ibaraki.jp/